

平成30年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 大竹市公共交通活性化協議会（計画策定事業）の概要



大竹市の概要

- 昭和29年9月に近隣町村が合併して市制施行し、現在に至る
- 人口 27,883人（平成27年10月現在）
- 面積 78.66平方キロメートル
- 広島県の西端に位置し、海上沖合に阿多田島、猪子島、可部島、甲島を有す。広島市へ約30km、岩国市へ約6kmの距離にある。

大竹市公共交通活性化協議会の構成員

大竹市 広島県 大竹警察署 大竹市自治会連合会女性部会 ミツ石自治会
 (有)大竹交通 (有)大竹タクシー (有)やまとタクシー ミツ石地区乗合タクシー
 湯舟のりあいタクシー 栄ぐるりんタクシー ひまわりタクシー
 御園台地区乗合タクシー 大竹市社会教育委員会 中国運輸局広島運輸支局

地域公共交通の現状

※高齢化率：33%（平成27年10月現在）

- 鉄道：JR山陽本線（大竹駅、玖波駅）
- 航路：阿多田島航路
- 4条バス路線：大竹・栗谷線（大竹市運営）、坂上線（大竹市・岩国市共同運行）
- コミュニティバス：こいこいバス（大竹市運営）
- フィーダー交通：デマンド型乗合タクシー（5地区）
- 運行補助：タクシー運行に対する事業費の一部補助（2地区）

地域公共交通の現況



具体的な課題・問題点

- 人口減少・高齢化の急進が、今後も継続する
- 高齢層で移動の満足度が低く、今後はさらに買物や通院等、生活の移動に困る高齢者の増加が懸念される
- 地域の暮らしを支える路線バス利用者が減少している
- 公共交通サービスを担う事業者の人手不足・高齢化が深刻な問題
- 今後、公共交通維持に必要な財源の縮小が見込まれる

調査事業の実施

調査事業の概要

- 現況調査（人口、運転免許保有状況、通勤・通学流動、公共交通利用者数等）
- 市民ニーズの把握（市民アンケート）
- 利用者ニーズの把握（路線バス・コミュニティバス利用者調査）
- 事業者意向の把握（バス・乗合タクシー・航路事業者ヒアリング調査）
- 地域公共交通網形成計画の作成

協議会における検討

- 協議会の開催状況 3回開催（予定）
- ・第1回（5月28日）
調査の進め方の確認
 - ・第2回（12月27日）
地域公共交通網形成計画(素案)の確認
 - ・第3回（2月頃）
地域公共交通網形成計画の承認

地域住民の意見の反映

- ・本年度8月～9月に15歳以上の市民2,500人を対象にアンケート調査を実施し、1,253人の回答を集計。（回収率：50.1%）
- ・本年度9月に路線バス、こいこいバス利用者を対象にアンケート調査・ヒアリング調査を実施し、路線バス105件、こいこいバス303件の回答を集計。

事業実施の適切性

- 事業が計画どおり適切に実施された。
- ・地域公共交通網形成計画策定に必要な調査ができた。

調査事業の結果の概要

- ・地域の現況や公共交通の現状、市民・利用者へのニーズ調査結果より、進行する人口減少・少子高齢化に伴う流動の減少や公共交通サービスを維持するための財源縮小、生活の移動に困る高齢者の増加、高齢層の移動満足度の低さ等の問題点を把握した。
- ・交通事業者へのヒアリング調査結果により、乗務員不足や乗務員の高齢化の進行がサービス維持の大きな障害である等の実態を把握した。
- ・こうした問題点・課題を受け、持続可能な地域公共交通体系を構築するため、今後5年間における基本方針、目標、目標達成のために推進する具体事業について検討した。
- ・今後の協議会の検討を経て、『地域公共交通網形成計画』として最終的にとりまとめる。



地域公共交通網形成計画等の計画策定 に向けた方針等

【基本方針（地域公共交通網形成に向けた基本的な考え方）】

- 市民の移動環境を確保・維持する
多様な主体の協働により、将来にわたり市民が快適かつ安心して外出・活動できる移動環境を確保し、維持する。
- 暮らしやまちづくりを支える
移動環境の整備を通じて、市民の暮らしやまちの活性化を支える。
- 市民自らが守り育てる
市民自らが主体的な立場で、移動環境を創り・守り・育てるという意識の向上を図る。

【網形成を推進するための取り組み方針】

- ①市民生活を支えている現行の公共交通サービスは維持を基本とする。
- ②持続可能なサービスとするため、公共交通の効率性を高める取り組みを推進する。
- ③地域住民との協働により、移動環境の向上に有効かつ需要に適した地域内交通の整備を推進する。
- ④鉄道事業者等関係機関との協働により公共交通の利便性を高める取り組みを推進する。
- ⑤公共交通サービスの維持に向けて、市民の公共交通の利用意識、及び支援する意識を高める。